

---

# 主人公による主人公のための主人公

紅の雲雀

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

主人公による主人公のための主人公

### 【Nコード】

N5532Z

### 【作者名】

紅の雲雀

### 【あらすじ】

どうも、僕だよ。

この物語は僕による僕のために僕の物語だからね。

自己中心的で自分勝手な僕の人生が綴られているだけの物語さ。

みんな号泣するような本編なんてとっくの前に終わったんだから。

これは僕の中の後日談。

君らにとっての本編。

※この小説は1話500文字前後の短い小説です

**始まり？ いや、始まりませんよ（前書き）**

自分勝手に書いてみた結果がこれです。

自分的に自信作で。

自分的に大変悪い作品になっております。

はっきり言って自分で何かいてるか分かりません。

ですので、苦情は受け付けません。

それではどうぞ。

**始まり？ いや、始まりませんよ**

もしこの世界に主人公がいたら？

よく「自分の人生の主人公は自分だ」ってさ。でもそんなものじやなくて。

この世界で起きてる事件や出来事を解決する主人公。

そんなのがいたら世界は主人公の正義を振り回されるな。

主人公が「アイツは悪」って言えば悪になってみんなは悪を嫌う。

自分は正義なんだから何でもしていい。

自分は正義なんだから何しても許される。

自分中心的な考えを相手に押し付け、自分の正義のために戦う。

主人公っていう肩書きは便利だ。

「自分が正義」！ って言ってしまえばそうなる。

そしてヒロインがいるだろ？

主人公の幼馴染だとかクラスメイトだとか。

ヒロインに巻き込まれて主人公はヒーローになってしまったり。

最後はハッピーエンド？

羨ましい身分だな。

それで素晴らしい仲間たちと共に戦うんだろ？

同じかどうか分からないけどその自己中心な正義の基に戦うんだろ。

愉快なこった。

これほどムカつくことがあるだろうか？

だから僕は主人公ってものを嫌う。

というかこんな幸せな主人公もどきが嫌いだ。

本当の主人公はもっと独りで。

もっと弱く。

もっとカッコ悪い。

そんなもんだよ、主人公なんて。

起きたら電球が切れてて。

電球を行く途中で犬の糞を踏んでしまつて、子供に笑われて……。電球のサイズが違つて取り替えてもらうため店まで行つた。

その途中「アイツ犬のフンを踏んだドジ野郎だぜ」と笑われ……小石に躓いた。

店に行つたけど、欲しかった電球のサイズのものが売り切れてた……ありえないだろう普通。

こんな出来事僕の生きてきた人生の一部の出来事ふしでしかないけど。僕は不幸体質らしい。

よく物語で不幸体質の主人公主人公っているけど。

アレは主に女の子が関わる不幸不幸だ。

どっかの誰かみたいに「ふこーだー」って叫べば良いのかな？  
叫んだら女の子が落ちてくるのかな？

今、ここで、主人公が、「ふこーだー」って、叫んだら

物語は進むのかな？

まあ、僕は進まなくていいや。  
主人公

進んだところで正義なんて興味ないし。

誰かが言う悪を正義で捻じ伏せるといふ性格してないし。

僕の相手をする人が可哀想だよ。

だからこの世界は起承転結物語の転は起こらない。  
だって僕が主人公だから。

ある日の事。

なんて思わせぶり書いてみるけど何も起こらず。

僕を主人公とする世界は何も起こらず平和だった。

もしかして「主人公が世界を壊す」という物語なのでは？と思うような日常。

それか「実は僕は主人公ではなく一般人で、僕が知りえないところで物語は進んでる」とか。

まあ、僕以外が主人公ってのはないな。

だって……僕がこの世界を創ったんだし。

驚くようなことじゃないよ、だって僕主人公だし。

ほら、アレだよ。主人公なら何しても許されるってやつ。

そう、それだよ。

そんな感じで創ってみた。

前の世界は意外とつまらなかったよ。

偽善者が主人公を<sup>ヒーロー</sup>気取ってる世界なんてね。

だから僕は主人公らしい我俣で偽善者を自分の正義で捻じ伏せた。呆気なかったよ。

僕が散々と言ってきた主人公の自己満足や自己中心的考えや我俣で。

努力の成果も、築き上げた友情も、育まれてた愛も。

一瞬で無に帰った。

所詮は偽者、本物には叶わない……。

という感じにダークヒーローなんかより捻くれた僕だったけど。

何も起きない世界でのんびり主人公をやってる。

だけどもあ、唯一の敵といえ……。

これから現れるだろうダークヒーロー。

めんどくさいものだ……。

**善も悪も全ては平等に一緒だよ**

晴れの日も雨の日も風の日も。

傘も差さず、ただ空を見上げて。

誰かと群れあうことを忘れた弱者<sup>きみ</sup>が言う。

——————バーカ。

ここで秘密を話そう。

重大な……とても重大なお話だ……。

少年誌の主人公にとってタブーなのは……と考えてみよう。

特殊な能力を持ってない？ 女の子にモテない？ ぼっち？

いやいや、違う。そんな些細問題じゃないよ。

少年じゃないことだ。

まあ、例外はあるけど。

例えば、もうすぐ1000巻に到達する題名の長くて噛みそうになるマンガとかね。

でも、世の中の常識では少年誌の主人公＝少年だろう？ それか

少女。

何を隠そう僕は中年のおっさんだったのだ……！

という冗談は置いて話を進めよう。

少年誌の主人公のタブー……。

例えば……最初から最強無敵だったり、敵が変身してるのに攻撃



するほど空気が読めなかったり、連続殺人事件の犯人だったり。生温いギャグなんて無視した悪逆非道の人だね。

だから僕は少年誌の主人公にはなれない。

だから僕はこの世界の主人公をしてる。

平和な世界のね。

戦争も、友情、恋愛も何も起こらない世界で。

何も変わらず、何も変えず。

もし変わるとするなら、ダークヒーローが変えるのだろう。

主人公を気取って仲間を引き連れて僕を倒しにね。

だからある意味僕はこの世界の敵になるのかもしれない。

僕は“何も”してないのにね。

これもまた運命なのかもしれないけど。

世の中が平和でありますように……。

と、まあ、暇人なもので暇人らしく暇潰しをしてみたりする。

だけど世界は変わらず動く。

相も変らぬ世界関心するよ。

ということ僕の正義についての講座でも開こうかな？

ん？ 興味ない？ なら仕方が無い。

それじゃあ、今日は……悪者講座を開こうか。

全ては僕の嘘だから真面目に聞いちゃダメだよ？

それでは、始まり始まり……。

前に主人公ってものを否定したけど、特別悪者を否定しないわけじゃないよ？

まあ、悪者も主人公も寸劇を見てるのと同じだよ。

ヒーローものとかでよくあるじゃん。

負けた↓新しい力を手に入れる↓簡単に敵に勝つ↓次からそんな

に強くもなくなる。

のルール。

子供なんてヒーローが悪者に勝つところを見たいんだから。

でも僕は思うんだ。

悪者も修行すればいいじゃないか。

ヒーローばかり修行するんじゃないかってさ、悪者も修行して。

ヒーローを立ち直れないくらいぶちのめせばいいじゃん。

悪者も不思議な力を手に入ればいいんだよ。

ヒーローになんて負けない力をね。

物語にならない？ それでもいいじゃないか。

ヒーローすら殺す。

物語さえなりたたせない。

善も悪も混沌としてる。

そんな自己満足で書いたような物語。

まあ、そんな物語がこれなんだけど。

本日はこれまで。

お終い、お終い。

## これが僕の日常

たぶんそれは幸福でした。

永い時間求めていた幸福でした。

幸福は暖かくて気持ち良い。

こんな気持ちは初めてでした。

言葉にできないけど、ありがとう。

えー僕ですよー僕。

3話にして名前も明かさない、会話もしない。

主人公として主人公という概念をぶっ壊してますよ。

まあ、前置きはさて置いて。

今回は物語らしく“青春”と呼べそうな“何か”をしましょうか。

“何か”？

友情？ 恋？ 学業？ スポーツ？

さて、これ全てを行える場所があるでしょう？

ある程度の主人公は通うものだね……学校に。

だから今回は僕が学校に行くという、ただそれだけの話。

あ、一応言っておくと不登校ではないよ。

はい、ここで会話が行われると思った？

さんねーん、会話なんてしないよ。

だって僕の物語だからさ？ 普通に会話なんてしないよ。

とまあ、書くけど、今はやる事が無いのだよ。

授業……まあ、先生と呼ばれる人間が道德という授業で妄言を吐いているんだよ。

だから学校という場好かない。

それに僕には勉強ってものが足りないからね？

主人公ってのは勉強が出来る人や出来ない人がいるけど。

僕は全てにおいて最強なのさ。

だから勉強なんてやる理由がないし、それに僕という人間が道德なんていうくだらない授業を受けるのなんて苦痛以外の何でもない。うぜえ……コイツの存在を無かったことにしてやろうか……。

何が親切だ、そういう偽善者みたいな事を言う奴ら全員むかつく。

とりあえず、道德の授業が終わった。

何というか帰りたい……。

つまらない……大学生が小学1年生の勉強を教えられるみたいに  
つまらない……。

だからここで初めて主人公らしく能力ってやつを使おうかな。

主人公らしく、主人公らしくない用途で。

つーことで『分身』。

まあ、忍者物でよくある分身の術？

そんな感じで僕の偽者を椅子に座らせ僕は屋上へと足を運ぶ。

今は春。

やっぱりと言うか時期的には、まだ寒い。

だけど屋上から見る景色とやらは綺麗だった。

僕に綺麗な物が綺麗と分かるかだって？

そりゃあ分かるさ。だって人間だから。

これでもキッチンと人間らしく、それこそ夏に虫取りをする少年み

たいに元気な少年だった時期ぐらいある。

とりあえず寝よ……。

寒いからと言っても流石に春独特の空気を吸うと眠たくなる。

そして僕は『4次元ポケット』から毛布を取り出した。

さて、どの場所で寝ようかな。

人に見つかりやすい場所だと後々めんどくさそうだし。

……さて、ここで質問だ。

屋上で寝ている生徒（女子）がいる。

主人公の選択は！

？襲う

いや、これは流石に止めとこう。

？一緒に寝る

そこからいろいろ関わることになりそうなのでパス。

？無視

うん、これが妥当だ。

というか、この場所から離れよう。

ここにいてだけで物語が進みそうだ。

ということで僕は授業をサボるために音楽室に向かった。

たしか今の時間帯は使われてないはずだから。

そして「分身に全て任して帰ればいいじゃん」というツツコミはナシね。

音楽室……それは音楽の授業を受ける場所。

また放課後は吹奏楽部が使っていたりする場所。

そして今はまだ授業中。

でも今は音楽の授業はない。

だけど何だこのピアノを弾いてる少女は……。

しかも上手いときたか。

でも物語が進みそうなのでパス。

ここまで2箇所行って2箇所共に女の子がいた。

つまり僕が行く場所は大体の確立でヒロインとなりそうな女の子がいる。

家の隣の少女、遅刻しそうでパンを加えて走る少女、図書室にいる文学少女。

どうやら僕が創ったはずの世界は僕の気を知るか知らないか分からないけど、僕を主人公にしたいらしい。

だから僕はフラグは立てないし、フラグが立ちそうな場面に出くわすと逃げる。

ちなみにこの世界が平和なのは僕がいるから。

本当のこと言うと数年に1度、“悪”と呼ばれる奴らが何か企てるから。

平和が大好きな僕は大事になる前に“悪”の芽を摘む。

これがこの世界が平和な正体。

これが僕が主人公として目立たない理由。

自分では自分の役割は、世界の平和を守る主人公だと思ってるよ。だからそんな意味では主人公として頑張ってるんじゃないかな。

主人公として世界を守る。

これが僕の日常物語なのかもしれない。

**まともに自己紹介？まずは“まとも”を教えてください**

時に迷いました。

迷路みたいな左や右に行ったり。

それがただ楽しくて、ただ悲しくて。

矛盾とも言える感情も嬉しく感じました。

だから僕は君を好きになりました。

どうも、僕だよ。

自己紹介をしよう。

僕です。

好きなものはないです。

嫌いなものもないです。

一応主人公やっています。

だけど主人公らしくありません。

どちらかというところダークヒーロー寄りです、もっと捻られています。

ヒロインはいません、友達もいません。

昔も今もきつと未来も独りぼっちで物語に生きます。

楽しくありません。

嬉しくありません。

寂しくありません。

悲しくありません。

僕は主人公だから何でもできます。

独りで生きていきます。

後悔をしないように。  
後悔をさせないように。  
僕は今日も独りぼっちの物語に生きます。

……と、まあ無駄に言葉を並べてカッコよく見せたりする。  
というかネタ切れなんだよ。  
誰とも喋らず、物語が進まず。  
何をしろと言うんだ……？  
まあ、何もしないけど。  
僕の戦闘パートなんて見ても誰も得しないだろうし。  
すぐに終わるだろうし。  
今日あったことを話そう。

4月19日、晴れ。  
今日も世界は平和に回っている。  
そしてクラスメートの頭も狂ってる。  
やっぱりと言うべきか、主人公のクラスメートはバカばかりだ。  
エロ猿とか。  
まあ、今日もいつもどおりの代わり映えのしない毎日の中の1日  
だった。

日記的な感じで今日のあったことを書き綴ってみただけ。  
日記って意外とつまらないものだな……。  
日記って読み返してみると面白いものだけだ。  
僕のは面白くなさそうだ。

日記で思い出したけど思い出か……。  
そんな物僕にはあったっけ？



なんて惚けてみるけど、確かにあった。

忘れたくても忘れられなくて、今すぐにも忘れてしまいたい過去。

そんな物が僕の中にまだある。

ああ、止め止め。

こういうのは苦手なんだ。

過去がどうか、そういうの僕のようなことじゃないし。

空気を読まず、おどけた仮面で踊るほうが僕らしいよ。

まあ、やらないけど。

気分はどうだい？

ある日、君は言いました。

———主人公って信じる？

僕は元気に「うん」と返事をしました。

君は漫画のような主人公に憧れていました。

だから僕は君のために主人公になりました。

さて、僕だよ。

みんな大嫌い僕が登場だよ？

今日は何をしようか。

世界を破滅させようか。

人類を崩壊させようか。

めんどいからしないけど。

毎度毎度のことだけど、この物語ってつまらないよね。

うん、分かるよ。

だって僕が主人公だもん。

何も事件が起こらず、会話もせず。

ただ刻々と時間が過ぎていく物語なんて、ただ文を書き綴っただけじゃないか。

上手くない、面白くない、こんな物語。

だって読者が言う面白いと言われる悲劇なんて終わってしまった

ことだし。

だからそんな意味でこの世界で生きている僕の人生は物語の延長線にあたるようなんだから。

これ以上に面白くなるなら、それはきっと僕の中の最悪のハッピーエンド。

僕は幸せになってはいけないし。

不幸せになるつもりもない。

ただ普通に。

普通に生きられたら。

そんな当たり前の主人公らしいことを言ってみたりする。

主人公なんてもっとカッコ悪く。

もっと弱く。

もっと脆い物なんだよ。

それを理解してない子供はテレビの中のヒーローを笑う。

笑う場面も真面目な場面も理解せずに。

なあ、僕<sup>ヒーロー</sup>。気分はどうだ？

自分に問いかけようが、僕自身答えるつもりはない。

だって答えようが答えまいが、その答えは僕自身が一番理解しているから。

だから僕は君<sup>ヒーロー</sup>に問いかける。

ねえ、君<sup>ヒロイン</sup>。気分はどう？

いるはずも無い君に問いかけても答えなんてあるはずがない。だけど見えないし、聞こえない。

そんな答えを心のどこかで探してる。

主人公として守るべき対象を探してる。

まあ、全て嘘だけど。

**気分はどうだい？（後書き）**

今日は12月24日……

ねえ、君（リア充）……気分はどうだい？

## マジ僕1000% (前書き)

あ、遅くなったけど忠告？

この小説は1話500文字前後の短い小説です！

マジ僕1000%

僕は君を守りました。

悪という悪から。

君だけの主人公<sup>ヒーロー</sup>として。

自分がどれほど無力かも知らないで。

どうも、僕だよ。

今日は明るい感じでいこうと思う。

というか努力する。

努力するけど完全に100%できると思わないことだね。  
だって僕のことだから。

さて、明るい感じでどんな感じだろう？

んー……はて？

どうすれば明るい感じになるんだろう。

僕だよ☆

とかやればいいのか？

というか、こんな面白くない物語を見ている時点で読者<sup>みんな</sup>は暗い気分になって、イライラするのではないか？

まあ、そんなどうでもいい。

だってこの物語は全て僕の自己満足で出来てるからね。

明るい感じ……明るい感じね！。

どうも！僕だよ☆

みんなを幸せにするために生まれたんだっ！（キラッ

ううえー気持ち悪いー。

それにしても明るいお話かー。

アレだよ。

普通の物語なら他のキャラだして、主人公との日常を描くのだからけど。

この物語、僕しかでてきてないからね。

脇役Aすら出てないからね。

あ、出てきてたか。

道德の時の先生とか屋上で寝ていた少女とか。

むー……思いつかないんだよ。

いつも無駄に言葉を並べることしか能がないからさ。  
いざって時に思いつかない。

というか、けっして明るいとは言えないけど。

いつもよりは明るいんじゃないか？

うん、そうだそうだ。

いつもより明るい！

そしていつもよりポジティブシンキング？

と、まあ、いつもより可笑しい僕でした。



## 世の中で大きなことⅡ子供のケンカ

自分は無敵のヒーローだなんて自惚れてた。  
だけど現実のヒーローも漫画の中のヒーローも負けてしまう事があるんだ。

そして僕が失ったものは命よりも大事なものでした。

こんにちは？ 僕だよ。

時間や曜日の感覚なんてないよ。

だって知ってても意味がないし。

でも偶に土曜日に学校に行ってしまう。

前も述べたけど僕は引き籠もりではない。

大事なことだからもう一度言う。

引き籠もりではない。

一応毎日学校は通ってる。

ただ普通に。

ただ地味な子として。

誰にも相手をされず。

誰も相手にせず。

ただその存在しているだけど人みたいに。  
窓側の一番の後ろの席に座っている。

話を戻そう。

僕は今日が何日か分かっていない。

たぶん4月なんだろうけど。

まあ、どうでもいいや。

だって世界は今日も平和に回ってる。  
ならいいじゃないか。

後は考えることなんてない。

だって。

どこかで起こってる戦争も、平和に生きてる僕らには関係ないフリして生きてる。

どこかで起こっている不幸は、自分の不幸ではないと僕らは関係ないフリして生きてる。

まあ、人間なんてそんなもんだよね。

自分の見えない、自分の知らない不幸なんて自分には関係ない。  
実際僕だってそうだよ。

全世界を震撼させるほどの事件しか潰さないし。

どこかで行われてる戦争を次々と潰すなんて面倒くさい真似はできないし、したくない。

だってそうでしょ？

僕以外で考えるなら。

戦争を止めようと思っても、世界であちこちで行われてるケンカを止めようと思う？

答えはNOのはずだよ。

そんな小さいことばかり気にしてられない。

僕の中では戦争なんてそんなもんだよ。

止めさせても、止めさせても止まらないからね。

だから今日は僕にとって平和な日常。

どこかで戦争が行われてようが、僕には関係ない。

だから今日も僕はいわゆる平和な日常を過ごす。  
見て見ぬフリをして。

だから今日も僕は授業を抜け出して寝ている。  
いつもどおりにね。

**雨が降ったなら能力を使えばいいじゃない**

分からない。

ねえ、分からないよ。

僕には分からないんだよ。

だから僕に教えてよ。

こんばんはー、僕だよ？

声が小さいなー。

もう一度。

こんばんはー。

まあ、1回目も2回目も誰も言ってないと思うけど。

そんな感じで僕です。

あと少しで4月が終わっちゃうらしいよ？

関係ないけど。

でも4月が終わっちゃうとゴールデンウィーク？

これも関係ないけど。

だって友達いませんから。

何で悲しいセリフをさらりと言うか？

これまた関係ないから。

だって友達なんて作ったら物語が進んでいまうでしょ？  
それを避けようと思ってね。

どちらにせよ、こんな性格の人にはできないでしょ？

まあ、お話を続けよう。

4月が終わっちゃったら雨がどんどん降るよね。

梅雨とかになっつてずっと雨降ってきて。

ビッチョビッチョに……ならないけど。

僕の場合、水が僕を避けてくれるような能力を使えばいいだけだし。

だって主人公だから。

こういうの能力の無駄使いつて言うけど。

使わなかったら使わなかったで能力の持ち腐れでしょ？

だから適度に使おうにも使う相手なんていないしね。

偶然そこらに悪魔と落ちてないかなー……いないだろうけど。

ただ偶然で悪魔が落ちてきて、そこに天使が登場。

悪魔VS天使の結果は悪魔が勝利。

そして主人公が天使を発見。

天使から力を貰って天使の代わりに戦うことになる。

簡単に思いつく物語だ。

だから、もしここで悪魔が登場するようなことがあれば、僕は悪魔を天使に見つからないやり方で殺すかな。

だって巻き込まれたくないし。

普通の主人公だって巻き込まれたくないと思ってるけど、そんな心と裏腹に天使と仲間になっちゃうでしょ？

だから僕はそうならなかったために悪魔という元凶を殺す。

力がない主人公もどきは力がないけど、僕には力があるから。

まあ、これは壊す力であって守る力ではないんだろうけど。  
守る対象がないからどうでもいいや。

もう夜だし寝るよ。

おやすみ。

## これが僕の呪い

僕は僕だから僕として僕を真っ当するよ……僕だから。

空は明るいなー。

あ、どうも僕だよ。

こうも明るいと暗い僕が場違いに思えてくる今日この頃。

4月という変わり行く時期に変われなかった僕は今日も取り残されてる。

前に進むことも、後に引き返すことも。

前に進む道も、後に引き返す道も。

どこかに忘れてきたみたい。

しかたないよ、僕だし。

僕なんだから仕方がない。

だから僕は僕という理由で諦める。

だって僕だから。

まあ、4月も終わって今日はゴールデンウィークの初日。

イベント？何それ美味しいの？

僕にイベントなんてあるわけないじゃん。

たぶん次の話に行く頃にはゴールデンウィークなんて終わってるよ。

だから進まない。

物語も時間も。

僕はある時間からずっと取り残されたままだから。

ずっとここにすることしかできない。

あーあ。

それにしても僕なにやってるんだろ。

何で主人公やってるんだろうな。

何で生きてるんだろ。

何でモブでもなんでもない存在をやめてしまったんだろう。

何であの時死ななかったんだろ。

———何でなんだろう？

僕には主人公をやる意味も、生きる意味もないのに。

これが主人公の呪いってやつ？

自分の意思も関係なく巻き込まれたりする。

あー怖い怖い。

何て怖い呪いなんでしょうね。

個人の意思を尊重するという考えはどこへ行ってしまったのかな？

まあ、自分の不幸体質が悪いんだろうけど。

たまに忘れそうになるよ、この設定。

この設定のせいで死にそうになることも多々あったけど。

結局死ねないんだけどさ。

死ぬだなんて大袈裟に書いてみたけど。

主人公が死ぬわけないんだよ？

死んでも生き返ることとかはありそうだけど。

僕は主人公だから死なないし。

死ねない。



それだけが僕が唯一どうにもならない呪い。

## これが僕の呪い（後書き）

これが今年最後の更新かな……？  
来年もいっぱい更新するんで  
よろしくです！！

いきなり、それも大きく

始まりも終わりも僕は独りでした。  
だからこそ誰もいない空に呟く。

———本当は僕が弱者でした。

やあ、おはよう。

僕だよ。

今日はゴールデンウィークが終わった次の日。  
教室ではクラスメートが騒いでる。

……五月蠅いなあ。

そんな感じで時間が過ぎていき先生が入ってくる。

まあ、普通か。

少し周りが騒いでるけど、それはゴールデンウィークのせいだと思  
う。

僕はいつもどおり先生には目を向けず、窓の外を眺めていた。

そして物語はいきなり。

それも大きく。

動き出した。

———初めまして。転校生です。

いきなり、それも大きく（後書き）

第一部終了っ！！

やっぱ更新したぜ！

それにしてもこれで今年終了ですねー早いものです

来年もあなた達にとって良い年であることを祈っております  
それでは！紅の雲雀でした！！

**やあ、初めまして転校生です（前書き）**

今年初の更新です！

今年もどうか紅の雲雀をよろしく願います！

やあ、初めまして転校生です

物語は思わぬときにやってくる。  
いつだって、こうやってさ。

———初めまして。転校生です。

あの顔は見覚えがある顔。

いつかの僕に係わりがあった人物。  
今の僕には関係ない人物。

ヒロインでは無いにしろ、僕の中のサブキャラだった。

「天草霧野……よろしく」

「雛形あかりだよっ！　よろしくね!!」

この2人は前の世界で会った事がある。  
というか僕達の周りにいた。

まあ、何でこの2人がこの世界にいるか。

そして何で偽善者<sup>ヒーロー</sup>と側にいるのか。

「はじめまして！　俺の名前は赤澤爽太だよ。よろしく！」  
爽太……ねえ。

いかにも「爽やか!!」って名前で……イラつく。

いいねえ、いいねえ……丁度良い感じでイラつく。

「それでは。そうだなあ……一番後ろの席に座ってくれ」  
と先生が言った。

後ろ……やっぱりと言うか僕の近く。

ムカつくねえ……。

「よろしくね」

爽太くん（笑）が笑いながら手を差し伸べてきた。

あーイヤだイヤだ。

もちろん僕はガン無視だよ。

だって嫌いだから。

「あ、軽々しいのは嫌いかな？　ごめんね」

笑っているのにも関わらず嫌な感じを与えさせない。

僕にはムカつくけど。

そんな主人公が目の前に……ぶっ殺せばいいのかな？

その笑顔を奪い取って、感情すらも奪い取って。

壊してしまおうか？

まあ、面倒くさいからしないけど。

だって僕だから。

あっちが仕掛けてこなければ動かない。

だって面倒くさいから。

さて、偽者……君の物語はどう転がるのかな？

ラブコメ？　バトル？

僕を殺しちゃう？

もし僕とバトルだったらバッドエンドをプレゼントしちまうぜ。

だからせいぜい甘々なラブコメをしてるんだな。

**この世界は“みんな違って、みんな良い”よ（前書き）**

学校で「みんな違って、みんな良い」という講演会があったら気に入らなくて書いてみた……………うん



この世界は“みんな違って、みんな良い”よ

ただいつも貴方は外を見ていた。

何をというわけでもなく。

彼女がいなくなってからの貴方は————ただ生かされてる人  
形みたいでした。

おはよう？ 僕だよ。

今日は「みんな違って、みんな良い」そんな言葉について語ろう。

え？ 転校生？

知らないよ、そんなもの。

「みんな違って、みんな良い」？

僕からして見れば「みんな違うから、みんなムカつく」なのだけ  
ど？

誰もかれも良いとは言えない。

だってそうでしょ？

自分とは違う人間。

自分とは真反対な人間。

自分とは相容れない人間。

そんな人間が良いと言える？

残念ながら僕は言えないな。

だってそうでしょ？

まあ、確かにさ友達は自分とは違う人間だけどいい。

だけどそれ以外は嫌でしょ？

それ以外の自分とは違う人間は嫌いでしょ？  
嫌でしょ？

良いとは言えないでしょ？

例えば会議。

相手は自分とは真反対の意見。

この場合「こいつムカつく」とか「気に入らない」とかそんな感情が生まれるでしょ？

だから僕はこの「みんな違って、みんな良い」って言葉が嫌いかな？

まだ「十人十色」のほうが好きだよ。

だから転校生ヒーローが嫌いです。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5532z/>

---

主人公による主人公のための主人公

2012年1月9日20時45分発行